



12月7日 - 8日 (Rd.7-8) 天候: 晴れ
コース: 鈴鹿サーキット

2024 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,7-Rd,8 OTG Motorsports REPORT

本来なら8月に予定されていた「FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP (FIA F4選手権)」の第4大会(第7戦、第8戦)が鈴鹿サーキットで12月7日、8日に実施された。今季も7大会14戦で競われているFIA F4選手権は、全大会がSUPER GTと併催されていて、第4大会は台風が接近したためSUPER GTと同様に中止となり、12月に延期となっていた。

シーズンは第4大会の延期を含め天候不良の影響を受け、第5大会以降は予選や決勝レースがキャンセルとなることもあった。それでも今大会は快晴のもとでレースウィークが進み、予選と決勝レースともにドライコンディションで競われた。

今季のFIA F4選手権は、シャシーが安全性能を高めた「MCS4-24」に移行され、エンジンが最高出力を引き上げたトムスTMA43に変更されるなど変革期となった。

大阪トヨペットグループとダンロップタイヤが共同で支援している「FIA-F4 JAPANESE CHALLENGE DRIVER」も6代目となる熊谷憲太選手が選出され、OTG MOTORSPORTSからフル参戦している。今年が初のフォーミュラレースとなる熊谷選手は、開幕大会こそ連続してポイントを獲得したが、その後は8月の第6戦で9位に入ってから、トップ10から遠ざかっている。今シーズンを締めくくる第4大会では、結果を残して来シーズン以降の活躍に繋がりたいところだ。

2024年シーズンの最終戦となる今大会は、12月5日(木)、6日(金)が練習走行となっていて、7日(土)に予選と第7戦の決勝レース、8日(日)に第8戦の決勝レースが実施された。

●予選 12月7日(土)8時5分～25分(チャンピオンクラス)

第7戦 11位/2分7秒777 / 第8戦 10位/2分7秒777

今季のFIA F4選手権は、プロを目指す若手ドライバーのチャンピオンクラスとジェントルマンドライバーや女性ドライバーがエントリーできるインディペンデントクラスの2クラスに分けられていて、予選は独立して実施される。

チャンピオンクラスの予選は8時5分から20分間で競われた。12月らしく気温は10℃に届かず、路面温度も低かったことからウォームアップ重要となる。熊谷選手は2周にわたってタイヤとブレーキなどに熱を入れると3周目からアタック。4周目には練習走行のタイムを0.5秒以上上回る2分7秒912をマークする。この時点で20台中8番手のタイムとなるが、徐々にライバル勢がタイムを伸ばしていく。熊谷選手も7周目に自己ベストタイムとなる2分7秒772をマークし、翌周にも2分7秒799とほぼ同じタイムを残す。結果として、第7戦は前述のベストタイムで11位、セカンドベストタイムで競われる第8戦は10位となった。



●第7戦 12月7日(土)12時45分スタート

スタート11位、フィニッシュ12位

チャンピオンクラスの予選終了から4時間後に行なわれた第7戦の決勝レースは、11周で競われた。これまでは1周のフォーメーションラップ後にスタンディングスタートとなっていたが、路面温度が低いことから2周に延長されて、インディペンデントクラスを含む37台のマシンがスターティンググリッドに並んだ。

11番グリッドからスタートした熊谷選手は出遅れて2台に抜かれてしまう。しかし、1台は抜き返しオープニングラップを12番手で終える。2周目には自己ベストタイムとなる2分8秒812をマークして先行するマシンを追う。しかし抜きづらい鈴鹿サーキットなので、先行するマシンに迫ってもパッシングすることができない。5周目にはインディペンデントクラスのマシンがコースオフしたためにセーフティーカーが導入される。8周目にリスタートするが、1周も周回しない間に再びセーフティーカーランとなる。11周の決勝レースは残り1周で再開されたが、順位変動はなく熊谷選手は12位でフィニッシュした。



●第8戦 12月8日(日)8時15分スタート

スタート10位、フィニッシュ 8位(9位チェッカー繰り上がり)

2024年シーズンを締めくくる第8戦は、8日の8時15分にフォーメーションラップが始まる。昨日の第7戦と同様に2週のウォームアップとなり、37台のマシンが11周後のゴールを目指した。

10番手からスタートした熊谷選手は、前戦に続いてスタートで出遅れて1コーナーまでに2台にパスされる。しかし、先行していたマシンがコースオフしたため11番手に復帰。このアクシデントによってセーフティーカーが導入された。4周目にリスタートするが、直後の1コーナーで複数台がからむクラッシュが発生。熊谷選手の前後のマシンがクラッシュしたが、上手く混乱を避けて順位を上げた。3台の多重クラッシュとなり、またしてもセーフティーカーランとなる。レースは9周目に再開され、熊谷選手はポイント圏内の9番手に上がっていた。10周目には自己ベストタイムの2分9秒175をマークし5番手争いに加わるが、抜ききれずに11周目に9位でチェッカー。

正式結果ではトップでチェッカーを受けたマシンが失格となり、8位に繰り上がっている。

熊谷選手にとって初のフォーミュラレースとなった2024年シーズンは、13戦中4回の入賞で17ポイントを獲得。シリーズランキングは14位となった。



熊谷 憲太 選手

前戦から課題を考え直して挑みましたが、練習走行ではトップと1秒から2秒のギャップがありました。予選に向けては走らせ方やセットアップを見直して、少しでも差を縮められるように試みました。予選ではマシンのバランスが良く乗りやすかったこともあり、トップとの差は縮まりました。それでも11位と10位だったので良い結果とは言えません。決勝レースは第7戦、第8戦ともスタートで出遅れてしまい、先行するマシンを抜くことも出来なかったのが悔しい展開でした。それでも、第8戦ではポイント圏内に入ることができ良かったです。リスタート時のクラッシュに巻き込まれなかったことが結果に繋がったので、冷静な判断が出来ていたと思います。チャレンジドライバーとして初めてFIA F4選手権に参戦させてもらったシーズンでしたが、反省点が多く望んでいた結果は得られませんでした。この1年で学んだことを活かせるように、来シーズンも活動していきたいです。